

学校教育目標	◎よく考え<平成31年度~同2年度重点目標> ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	【目指す学校像】	
		【目指す児童像】	「あい」のある子供…○学び合う子供 ○思い合う子供 ○鍛え合う子供 ○繋ぎ合う子供
		【目指す教師像】	「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力) & innovation(革新性) & idenntity(共同体意識) のある教職員

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策								
確かな学力	学校体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②モジュール学習週3回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用(日1回)	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した 3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した 2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した 1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4	4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p 3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p 2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p 1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下	採点集計中	学習スタンダードを設定し児童の基本的な学習習慣の形成を図った。全体に向上してきたが、学年で取組の差が大きい。	3	学習発表会での児童の発表する姿は立派であり、多くの児童が確かに成長した様子が覗えた。指導的的確さを感じた。	3	学習発表会での児童の発表する姿は立派であり、多くの児童が確かに成長した様子が覗えた。指導的的確さを感じた。							
			①校内研究会(年間7回) ②授業実践研究(年間3回) ③研究の発表・報告	4 7割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 3 6割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 2 5割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 1 4割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った		4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p 3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p 2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p 1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下							採点集計中	読解力の育成をねらいに国語科の説明文の読解に関する指導法の研究を進めた。系統的な指導の必要性を確認した。	3	学習発表会での児童の発表する姿は立派であり、多くの児童が確かに成長した様子が覗えた。指導的的確さを感じた。			
			①週の指導計画確認(37回) ②授業観察・指導(2回) ③OJT研修(年間9回)	4 全ての教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。 3 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 2 7割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 1 6割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った		4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p 3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p 2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p 1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下											採点集計中	週の指導計画は全員が週末に作成し提出している。6割がリフレクションを記載し、翌週の指導計画に反映させている。	2
		生きる力の基本となる言語能力の育成を図る指導法の工夫について研究を進めます。	①生活スタンダードの徹底 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p 3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p 2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p 1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下	採点集計中	週の新学習指導要領を全員が週末に作成し提出している。6割がリフレクションを記載し、翌週の指導計画に反映させている。	2	きめ細やかに目標管理する教職員の計画性を素晴らしく感じている。リフレクションや変更事項を記入すると、貴重な指導記録となるだろう。									
											新学習指導要領に基づき、本実施並びに移行措置を確実に進めます。	①生活スタンダードの徹底 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p 3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p 2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p 1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下	採点集計中			
																	いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った
		道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	4	4 いじめ・不登校の出現回数3割減少 3 いじめ・不登校の出現回数2割減少 2 いじめ・不登校の出現回数1割減少 1 いじめ・不登校の出現回数改善なし	2	教科書を基に「道徳の時間」の指導の工夫を進めた。評価については、さらに改善する必要がある。	3	児童はもとより保護者が学ぶべきことも多い。授業公開に多くの保護者が参観するよう働きかけていくとよい。									
											家庭読書の啓発と1学級1栽培・1飼育活動に取り組みます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年2回) ③保護者による読み聞かせ活動(年5回程度)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った 3 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った 2 7割の教職員が、保護者への啓発活動を行った 1 6割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	4	4 全ての児童が、個人での図書室利用回数15回以上 3 8割の児童が、個人での図書室利用回数15回以上 2 7割の児童が、個人での図書室利用回数15回以上 1 個人での図書室利用回数15回以上の学級が5割以下	2			
																	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年2回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った 3 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った 2 体育科や運動の7割の授業で補強運動を行った 1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った
保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った 3 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った 2 7割の教職員が、保健指導を計画的に行った 1 6割の教職員が、保健指導を計画的に行った	4	4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る 3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る 2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る 1 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	2	新型コロナウイルス感染症の予防から、自他の健康や公衆衛生の知識や技能を、体験を通して身に付けることができた。	3	殆どの児童がきちんとマスクをしている。感染予防の指導が徹底している。休業中の生活リズムの維持が難しかったよう二思う。											
									安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(2月) ②避難訓練の改善(9回) ③安全指導の充実(9回)	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教職員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教職員が、安全指導を計画的に行った	3	4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P 3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P 2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P 1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし	1	多様なカテゴリーを有する安全教育を担保する全体指導計画とカリキュラムの開発が必要である。	2			
																	話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(6・7月) ②学級会活動(年9回以上) ③課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った 3 8割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った 2 7割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った 1 6割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った
ハイパーQUやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回) ②PAの活用の活用(年3回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを5回以上行った 3 8割の学級担任が、PAを5回以上行った 2 7割の学級担任が、PAを5回以上行った 1 6割の学級担任が、PAを5回以上行った	3	4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P 3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P 2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P 1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし	1	PAに関するOJTを実施し、中・高学年でPAの利用が進んだ。	2	児童同士のつながりが保護者や地域から見えにくい時代になってきている。より一層連携を図っていくことが肝要である。											
									自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③宿泊行事の充実(高学年)	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した 3 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した 2 7割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した 1 6割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	3	4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P 3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P 2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P 1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし	1	社会貢献・奉仕的活動の導入・活用は不十分だった。	2			